

平成 24 年度

事業所名 : グループホーム すりさわ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900165		
法人名	特定非営利活動法人いわて地域支援センター		
事業所名	グループホームすりさわ		
所在地	〒029-0523 岩手県一関市大東町摺沢字但馬崎25番地17		
自己評価作成日	平成25年 3月15日	評価結果市町村受理日	平成25年 5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0390900165-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成25年 3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日の買い物など外出の機会を多く持つことにより地域の一員として生活できるよう、疎外感のないよう支援しています。
 ・「〇〇したい」を応援し、生き生きと生活できる環境づくりを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム周辺は、一般民家のほか、銀行や事業所などが多く立地する賑わいのある街の一角となっている。利用者の皆さんは、普段、散歩など外出を通して、地域の方々や商店での買い物する客などと交流を重ねている。ホームの特徴は、同法人が経営する他のグループホームとの緊密な連携のもとで、感染症対策や研修を含め、全職員が一体となって「職員の意識調査」や「家族アンケート」を独自に実施しながら利用者の満足度の向上やケアの充実に努めていることである。利用者は、地域の方々や職員の温かい見守り、声かけを得ながら、職員の支援だけに頼らず、自分で出来ることは自分で行うとす中で、その出来ることの喜びの一瞬一瞬の感動を心に刻みながら、楽しく過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム すりさわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・ホールに掲示し、常に念頭において支援しています。また職員会議や運営推進会議の中で理念の再確認をしています。	毎月定例の職員会議で、管理者が理念を話題として取り上げケアや運営の振り返りとしている。また、理念の再認識のため職員の意識調査を実施し、その結果を踏まえ理念を職員が目につきやすい玄関やホールに掲示して、常に確認できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域住民の代表者に出席いただき情報交換を行ったり、地区内で開催されるイベントや文化祭に参加させていただきました。今年度は見学交流会を地元町内会の協力を得て開催しました。日常的に買い物を近隣のお店で購入したりしています。	ホーム周辺の散歩や買い物に出かける中、近隣の方や地域の皆さんと交流を深めている。また、商店街で行なうB級グルメフェスタに参加したり、ホーム見学会を開催して地域の方を迎えての新たな交流にも取り組んでいる。今後も、町内会や運営推進会議の委員との連携の下、地域情報を得ながら、交流の場を広げたいとしている。	ホーム見学会等の開催により、地域の理解が徐々に得られているが、今後はホームの広報を通じてイベント計画などを近隣に配布、周知するなどしながら地域の一層の理解を得ることを目指した取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学交流会を開催しグループホームの役割や実態を知っていただきました。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しています。生活の様子を報告し、意見・助言・要望等をいただきサービスに活かしています。構成員の方には、夏祭りや文化祭の参加にあたり、情報や助言をいただいたり、夜間の救急搬送時の報告を行うなど救急時の理解を得るようにしています。また、訪問看護師に出席してもらい状況説明をお願いしたりしています。	運営推進会議も回を重ねるごとに、意見や提言が多くなり、「参加したいのでホーム行事を早めに知らせて欲しい」とか、花見の場所情報を得たり、グループホーム火災に係る夜間対応など、貴重な意見や要望が出され、真剣かつ熱心な運営推進会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との連携は、運営推進会議に参加していただき、サービスの取り組み方などへの助言をいただいたり、入居の方の生活の様子を報告しています。また、困難ケースや各種手続きなどでご指導をいただいております。	定例の推進会議の際に、情報や意見の交換などを行なっているほか、感染症対応について様々な助言や指導を得ている。提出書類等を持参するなど、お互い顔を合わせて話し合う関係づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人及び事業所として「身体拘束排除・虐待防止宣言」を行い、宣言を掲示するとともに、身体拘束排除に関するマニュアルに基づき、見守りに重点をおき身体拘束は行っていません。施錠も日中は、行っていませんが、夜間のみ防犯のため施錠しています。転倒防止のため、人感センサーを使用していますが、センサーで行動が制限されないように職員間で注意しています。	月1回の職員会議で身体拘束廃止について確認しあい、再発の防止に努めている。また「制止」といった言葉による拘束についても利用者の誇りを損ねないよう職員間で注意合っている。なお、転倒防止のための人感センサーの扱いも話題にしているが、今後も、より一層見守りと注意を図りながらケアに当たりたいとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人及び事業所として「身体拘束排除・虐待防止宣言」を行い、宣言を掲示して、虐待のないように職員に周知徹底を図るとともに、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」「日常生活支援事業のご案内」などの冊子を利用して職員研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書をもって説明をし、質問や疑問、要望をお聞きしています。その上で理解・納得をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見・要望を記入できる用紙を設置しています。また、ご家族様の面会時に生活の様子をお伝えするとともに、ご家族様宛にアンケートを実施して要望、ご意見を伺っています。その結果は職員会議で報告、周知し迅速に対応するようしています。	意見箱を設置しているが、特に意見等は無く、ホーム独自の家族アンケートを実施して意見等を頂きその反映に努めているほか、運営推進会議にも報告している。今後も、家族アンケート実施のほか、普段から何でも言いやすい環境をつくりたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案を管理者をとおして代表者に報告・相談し、改善できるものは早急に改善するよう努めています。また、月1回のカンファレンス時には理事長も出席しており、職員の意見を聴いています。意見は備品の購入などに反映されています。	職員会議をはじめとして様々な機会に気付いたこと、考えたことを気軽に話せる環境にある。例えば、トイレ内への棚の設置や洗濯物干し場の設置などについて提案が出され、理事長も出席しているため速やかに対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して代表者へ状況報告をしています。定期昇給を実施したり職場環境の整備や必要な環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のカンファレンスを開催して、理事長が講話したり、勉強会をしています。また、個々のケアの実際と力量に応じ、法人外の研修を受ける機会を確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加し他施設と交流の機会を作っています。その際の意見や感想を職員で検討し、サービスに活用しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設を見学していただいたり、要望や不安なことなどをお聞きしています。家族や利用している事業所から情報を提供していただき、安心して入居できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の際には施設のサービス内容を説明しながら要望・質問に応じて、入居までの時間を充分とり、不安が軽減できるよう配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望をお聞きするとともに、ADLの状態を把握し、必要とする支援を知るよう努めています。医療ニーズの高い入居者には医療連携を図っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑仕事や料理、慣わしなど人生の先輩として知恵やアドバイスをいただいています。家事や作業などで支えられている部分が多々あります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報を通じて生活の様子を伝えたり、情報交換を行いながら家族状況を考慮し、行事に参加していただいたりして絆を維持できるよう、また、通院や外出などご家族の役割も担っていただきご本人を共に支えるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や床屋など今まで行っていたお店に行ったり、かかりつけ医もできるだけ以前からかかりつけ医に行くなど、以前からの知り合いなどと交流できる機会を作るように配慮しています。	利用者は、地域の方が多くことから、何処に出掛けても顔見知り、馴染み方が多く、買い物などで、利用者の近隣の方とバッタリ会われる方もいる。とりわけ理美容では馴染みの関係となっているため、のんびり散髪などをしながら、自分の時間を過ごし、笑顔帰られる方も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について職員間で情報を共有し、座席の工夫や余暇活動を通して交流が持てるよう支援しています。また、職員が間に入り孤立せず友好的関係が築けるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退院後身体状況から他事業所に入所する際には、ご家族の相談、事業所への連絡・調整を行いながら、いつでも相談に応じる旨を伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話を通じて意向・希望を把握できるよう努めています。職員は本人とのかかわりの中で、意向を把握しており、月1回のカンファレンス時に情報交換し、サービスに反映させています。	法人・ホーム独自の24時間シートを活用して、日々の介護中での会話から利用者の思いや意向を把握するようにしている。特に入浴時や買い物の際の利用者とスタッフのみのときは、利用者の思いを引き出す良い機会としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族より生活スタイルをお聴きしたり、前事業所より情報を得ることで混乱することなく生活できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、連絡ノートを活用し現状の把握に努めるとともにカンファレンス時に職員が情報を共有できるようにしています。24年度はご家族アンケートを実施しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の本人との会話の中や家族との面談の中で意向を話し合ったり、問題点や希望などカンファレンス時に話し合い、ケアに取り組みとともに介護計画を作成しています。	職員は、モニタリングやカンファレンスに参加して、経過記録に記録した情報を基に、ケアプランの評価や見直しに考え方を述べ介護計画の見直しなどに活かしている。今後とも、利用者・家族の意向等に応じたケアプランづくりを意識しながら対応したいとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録と連絡ノートで日々の様子や気づきなどを職員間で情報を共有し、支援しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じて、本人、家族の要望をお聞きしサービスの提供や変更を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加したり、また、町内会の文化祭に出展し見学に行ったりと地域の一員として生活を送っていると思えるよう支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望されるかかりつけ医に受診しています。かかりつけ医が変更になる際は、ご本人ご家族が納得の上で変更されています。受診の際には、家族の付き添いが原則としています。必要時は職員が同行しています。	入居後も利用者・家族が希望するかかりつけ医を利用して、医療受診の際は、家族同行を原則としている。なお、遠方や都合で来られない場合とか、普段の状況がよく分からない家族等の場合は職員が同行している。職員が同行することで、医療機関との連携も良好な関係となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて、訪問看護師に情報提供し相談しています。体調の変化を把握しながら、受診時のアドバイスや受診後の報告を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には家族、医療機関と事業所間で情報交換に努め、対応しています。入院時は、薬の情報や生活の様子を伝えて、退院時には看護サマリーの提供もお願いしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針を家族に配布するとともに、指針を運営推進会議にも提示し、職員研修会も開催して指針を共有を図っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを見直し中で、職員は普通救命講習を終了しており、緊急時の救急車の要請や家族連絡の仕方を話し合い職員で情報を共有しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は日中想定、夜間想定で実施しました。併せて、通報訓練、消火訓練も行っています。今年度は防災協力員として近隣の方を委嘱して、避難訓練に参加していただきました。地元の消防団の防火点検も行われています。	最近のグループホームの火災発生を意識しながら夜間想定での避難訓練や通報・消化訓練などの訓練を行っている。また、AED研修など救急対応の訓練を実施しているほか、近隣の方々の協力を得て避難訓練時に協力者(3名)の参加をいただき実施している。	利用者も経年化するに従い重度化の傾向にあり、それとともに避難対応の在り方も異なってくるものと考えられることから、様々想定した訓練や職員間の話し合いを行い対応の在り方についてお互い共有することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護に関する規程及び運用管理規程に基づくとともに、人格を尊重し、不快な思いをさせないような声かけを行うよう配慮しています。大きな声や命令口調にならないように心掛け、入居者の気持ちや誇りを傷つけないよう、また、不安な気持ちにさせないよう支援しています。	大きな声で呼んだり、或いは否定的な言葉を投げかけたりして利用者の誇りと心を傷つけたり、心の動揺を生じることのないよう、普段から職員で話し合い注意しているほか、DVDを利用し全職員で研修をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に希望が話せたり、自己決定しやすい雰囲気づくりに心掛けています。上手く表現できないケースは、職員が読み取り代弁するようにしていますが、一方的に決めつけるのではなく意思の決定を待つように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて生活できるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋、美容院などなるべく本人の要望をお聞きして支援しています。また、衣類もコーディネートしておしゃれに見えるよう配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気候の良いうちは毎日買い物に出かけ、バランスに配慮しながら好みのメニューを取り入れています。調理や配膳、後片付けを手伝っていただいています。季節の行事には、みんなで料理を作ります。また、制限食などの工夫もしております。	どんな料理を食べたいかなどを利用者の希望や好みを聞き献立を立て、ほぼ毎日買い物に出かけている。食事づくりでは、出来る方には下ごしらえや配膳などを行ってもらい、食事づくりに参加しない方には後片付けなど、出来るだけ多くの利用者がかかわるようにしている。職員も一緒に食べ、会話しながらの楽しい食事としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった食事量、食事形態の工夫をしています。食事量、水分量の摂取を記録しており、十分な食事ができないときは補食を勧めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事ケアに関するマニュアルに基づき、食後のうがい、歯磨き、義歯の手入れの声かけ、介助をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導するとともに、表情やしぐさから排泄のサインを読み取り誘導しています。	一人ひとりの丁寧な自立支援に向けたトイレ誘導により、その甲斐が実り利用者全員がトイレでの排泄が出来るようになっている。これからも、継続してトイレでの排泄ができるよう、職員の見守りや声かけを小まめに行ないたいとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表から排便の把握し、訪問看護師に相談しながら便秘薬の投与をしています。また、乳製品の飲料や軽い運動などで自然排便ができるよう予防に心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助に関するマニュアルに基づくとともに、入浴の曜日は決まっていますが、その時々で柔軟に対応し、一人ひとりのタイミングで入浴できるように、また、入浴時に声かけし、入浴したくない日は翌日に入浴していただいたり柔軟に対応し、急がせることのないよう支援しています。	入浴は1日おきとし午後3時30分から午後6時まで対応している。なお、毎日の入浴を希望する利用者には対応している。ヒノキ風呂の香りと、季節ごとに柚子を入れたりしてリラックスしてのんびり入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファ、など休みたいところで、休めるようにしています。日中はレクリエーションや体操を行い夜間の安眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルに綴り、いつでも職員が見られるようにしています。薬が変更になった際は連絡ノートや日誌に記入し全職員が把握するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や後片付け、食器拭き、タオルたたみ、洗濯物干し、カーテン締めなどその人ごとの役割を持って生活できるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や地域のイベントに出かけています。入居者の希望でお花見や相撲稽古の見学などに出かけました。	加齢や介護度の変化によって、散歩を含め外出希望者は、だんだん少なくなっているが、外出は、気分転換やストレス解消、適度な刺激運動にもつながることから、今後も外出支援にあたりたいとしている。なお、遠出として厳美のカッコウ団子を食べて出かけた。川崎町の花火大会を見に行ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の預かりはしていませんが、本人の希望する買い物はご家族に話し、立替えの形で利用していただいています。また、財布がないと不安になる方は、本人の了解のもと預かっており希望時に渡しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は電話できるようにしています。家族に話したいことがある時は面会時または職員を通して伝えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度に配慮しながら毎日の清掃を行い清潔を保っています。ソファ、テーブルなど好きなお店でくつろげるようにしています。季節の飾り付けをしたり、手芸品を飾り、落ち付ける空間づくりに努めています。ソファ・畳・テーブルを置いて好きなお店でくつろげるようにしています。観葉植物を置いたり、季節の飾り付けをしたり、居室に好きな絵を飾り、落ち着ける空間づくりに努めています。	広さと明るさを感じる共用空間には、ソファ、テレビ、畳の小上がりなどが配置され、のんびりゆったりと過ごせる空間となっている。壁には、季節の飾りや利用者の作品が、また相撲好きの利用者が多いことから、番付表が貼ってある。利用者は、ソファで足のマッサージをしたり、テレビを見たりと思いいいにくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・畳・テーブルの配置があり、その時々で好きな居場所を選べるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、使い慣れた物を自由に持ち込んでいただいたり、ご本人と相談しながら居室の配置をしています。	毎日の掃除を心掛けている。ベッドと整理タンス、クローゼットなど、備え付けのものを活用しながら、位牌や写真を置いたり、壁にはカレンダーや家族や自分の写真を飾っている方もいる。中には、新聞の切り抜き(政治や歌手など)を、熱心丁寧に貼って、楽しんでおられる方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には、本人、家族の了解のもと表札をかけて自分の部屋がわかるようにしています。また、手すりやトイレの表示で安心して混乱のよう支援しています。			